

# 第 2 期 事業報告書

自 2016 年 2 月 1 日  
至 2017 年 1 月 31 日

特定非営利活動法人アジアパシフィックアライアンス・ジャパン  
佐賀県佐賀市松原 1-3-5 ゼロワン佐賀ビル 6 階

## 1. 総括

2 期目となる 2016 年度は、本格的な組織の立ち上げの 1 年と位置付け、2016 年 4 月からスタッフを雇用し、同年 6 月には事務所を佐賀市内の中心部（佐賀市松原）に開設した。

2016 年 4 月に発生した熊本大地震の対応では、災害発生当日からパートナー団体のピースウィンズ・ジャパン（PWJ）とシビックフォース（CF）と協働体制を組み、ヘリコプターを活用した捜索救助チームを派遣、テントやトレーラーを活用した避難所環境整備と企業との連携により、避難所における物資配布等の緊急支援を実施し、同年 10 月まで避難者の方々への支援活動を継続した。その後も NPO と協働して地元の復興復旧活動を継続している。災害発生翌日から同年 12 月末日まで実施して頂いた佐賀県のふるさと納税で、A-PAD ジャパンが実施する熊本大地震支援事業への寄付は、合計 38,263,700 円に上り、そのほか企業からの寄付金を加えて合計 8,000 万円以上の寄付となった。行政、企業、NPO の連携協力のおかげで、一定の成果をあげられたと言える。

また、今後の緊急災害時に備えた活動として、佐賀県および佐賀市より倉庫等のスペースの提供を受け、緊急災害時に避難所で活用する設備や物資の手配と配備を行った。さらに、佐賀空港の災害時拠点空港化に向け、緊急人員派遣用の航空機調達に向けた調査と実現のための関係者協議を重ねた。

## 2. 事業報告

### 2-1 緊急災害支援- 熊本大地震被災者支援事業

#### 2-1-1 捜索救助チームの派遣

2016 年 4 月 14 日震度 7 の地震発生直後より、パートナー団体の PWJ および CF と協働体制を組み、ヘリコプターを活用し、レスキュー隊員 12 名と災害救助犬 2 頭を派遣し、被災地にて捜索救助活動を展開した。

【緊急派遣①】2016 年 4 月 14 日（地震発生後）～16 日（於：熊本県益城町、南阿蘇村）

【緊急派遣②】2016 年 4 月 16 日（於：熊本県益城町）



### 2-1-2 避難所環境整備

熊本県益城町の最大の避難所となっていた総合体育館にて、仮設トイレ（洋式）の設置を実施。また、同敷地内にペット同行避難者向けのテント村（緊急避難用テント：1基あたり約畳10畳分の広さ）を設置。避難者の高いニーズを受け、同町内にある再春館製薬所の敷地内にテント村を開設し、長期化する避難生活をサポートした。2か所のテント村には延べ76世帯、277人が避難した。



### 2-1-3 支援物資の提供

肌着を含む衣料など企業から提供を受けた支援物資のほか、紙おむつ、成人用おむつ、衛生用品、ウレタンマットレス、ビニールシートなどの日用品のほか、栄養サプリ、チョコレート、甘夏など、益城町総合体育館避難所およびテント村において、調査した支援ニーズに基づいて物資の調達を行った。さらに支援が行き届いていない小規模な避難施設のニーズを調査し、約1カ月にわたりトラックで配布を行った。



### 2-1-4 ユニットハウス村の設置/運営

仮設住宅までのつなぎ支援として、ユニットハウスとトレーラーを設置し、避難者の方々

にはテントから移動をいただき、長期化する避難所生活を少しでも緩和できるような取組を実施した。益城町内のテクノリサーチパークを借り受け、ユニットハウス 79 戸設置。室内には冷房、冷蔵庫、扇風機を完備した。そのほか、談話室、学習室、炊事場、洗濯場、シャワー室、犬・猫の一時預かり所など、入居者の方々が安心・快適に生活できるような取組みを行った。延べ 57 世帯 144 人に活用いただいた。



#### 2-1-5 NPO パートナー協働支援事業

佐賀未来創造基金、地球市民の会、佐賀県 CSO 推進機構を中心とした佐賀の NPO 団体から構成される任意団体「佐賀から元気を送ろうキャンペーン」と協働し、ボランティアの受け入れを行った。ボランティアの方々には避難所の管理・運営に参加して頂き、避難所内の清掃、ゴミ出しから生活水、遮光ネットなどの環境整備、物資調達、日中のペット預かり、イベント企画、見回り、夜勤、声掛けによる避難者の心のケアや生活のサポートなど、パートナーとして多岐にわたった支援活動が行われた。

#### 2-2 プラットフォーム構築事業

今後の緊急災害時に備えた活動として、佐賀県および佐賀市より倉庫等のスペースの提供を受け、緊急災害時に避難所で活用する設備や物資の手配と配備を行った。さらに、佐賀空港の災害時拠点空港化に向け、緊急人員派遣用の航空機調達に向けた調査と実現のための関係者協議を重ねた。

##### 2-2-1 備蓄倉庫の確保

熊本地震の支援活動で利用したシャワーユニットやテント等の設備やトレーラー、簡易トイレなどの保管場所として、佐賀市久保田支所の敷地内スペースおよび駐車場を佐賀市より、佐賀空港敷地内の倉庫と佐賀県鳥栖市にある佐賀競馬場を佐賀県より無償で借り受けた。





佐賀市久保田支所内



佐賀競馬場駐車場

### 2-2-2 空飛ぶ医師団プロジェクト準備

従来の捜索救助チームに医療従事者をメンバーに加えて被災地に派遣する「空飛ぶ医師団プロジェクト」を企画し、佐賀空港の災害時拠点空港化と緊急人員派遣用の航空機調達に向けた調査と実現のための関係者協議を重ねた。

### 2-2-3 佐賀県ふるさと納税を活用したファンドレイジングとネットワーキング

佐賀県のふるさと納税指定先 NPO として指定を受けた。当該年度は熊本支援寄付も含めて 43,738,189 円の交付を受けた。また 2016 年 12 月には東京交通会館(有楽町駅前)にて、イベント「佐賀にふるさと納税して NPO を支援しよう」を実施し、佐賀県の NPO 有志の会の事務局の役割を果たし、ふるさと納税を通じた NPO 支援のよびかけを積極的に行った。

以上